

## 参加者向け説明会

説明会でお答えしきれなかった質問にお答えしています。質疑応答の様子は動画をご覧ください！

## 説明会でご回答いただいた皆様

- 本城慎之介理事長（軽井沢風越学園）
- 首藤昭信教授（東京大学）

## 第25回 日経STOCKリーグ 受賞者

- 荒浪さん（軽井沢風越学園）
- 坂田さん（松本秀峰中等教育学校）
- 松永さん（東京大学）

※無記名…事務局

## 日経STOCKリーグ全般について

Q

どのくらいの数のグループが参加しますか。

A

昨年ですと、中学・高校・大学・専門学校合わせて2,023チームにご参加いただきました。詳しくは実施記録をご参照ください。

<実施記録> <https://manabow.com/sl/result/record.html>

Q

日経電子版はどのように活用したら良いですか？

A

まず日経電子版の使い方として、トップ画面や「経済」「国際」タブから、気になった記事を読んでいた。また、テーマの方向性がある程度固まった後は、画面左上のボックスからキーワード検索を行い、読みたいテーマの記事を探していました。

松永さん

日経電子版を読んでいて良かったと思うことは、多様な視点から経済・社会の最新トピックに触れたことです。通常の記事はもちろん、専門家の方々が様々な立場から意見を述べている「Think!」欄、欧米の視点で世界情勢を見ることができる「FT」記事をよく読んでいました。他では得られない多様な切り口を知る過程で、私たちのレポートテーマにつながるヒントを得られた、と考えています。

## 参加者向け説明会

説明会でお答えしきれなかった質問にお答えしています。質疑応答の様子は動画をご覧ください！

Q

資料を読む際、気を付けることはありますか。また、どのようにメモをするかも教えてください。

A

自分たちのテーマを念頭に置いて資料を読んでみてください。

レポート執筆までの流れの中で、どの時点で読む資料なのかにもよりますが、メモは「自分たちのテーマの妥当性を補えるか」「自分たちの考察のよりどころとなるポイントは何か」などを踏まえて要点をまとめる形で取ると良いと思います。

Q

ポートフォリオ理論について学生たちに分かりやすく教えられる参考資料などあれば教えてください。

A

松永さん

あくまで参考の一つとしてですが、首藤昭信先生が大学のゼミでご紹介された、手嶋宣之『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』は、高校上級～大学前半レベルの知識でファイナンス（ポートフォリオ理論含む）をわかりやすく学ぶことができます。

ともに日経STOCKリーグを戦ったゼミの同期生も手嶋先生のこちらの著書を挙げており、私もゼミの後輩に推薦しています。

Q

日経STOCKリーグに取り組むにあたり、有価証券報告書のほか、読んでおくべき書籍や資料を教えてください。

A

本城  
理事長

「日経業界地図」というムック本は入手すると良いと思います。

参考図書ですが、中高生だとニュートンの『人類の未来年表』もいろいろな面で参考になります。

それ以外にも、まずは大きな書店へ行って、未来予測やその業界の将来について書かれているような本を手にとってみることをオススメします。本を全部読まなくても、目次だけを読むのでも良いと思います。

A

松永さん

IRレポートを読むと良いと思います。有価証券報告書では義務付けられていない任意の開示内容であったり、その企業が大事にしている理念などを知れて、図や写真もたくさんあるので面白い資料かと思います。

## 参加者向け説明会

説明会でお答えしきれなかった質問にお答えしています。質疑応答の様子は動画をご覧ください！

Q

中学生ならではの実践の難しさと、乗り越え方を教えてください。

A

本城  
理事長

中学生にとって身近なテーマをいかに広く深くしていけるかがもっとも難しい点でしょう。だからといってSDGs17の目標をベースにして考えたりすると、中学生からは遠すぎて、地に足のついたテーマ設定になりません。

『深い学びをつくる』（キエラン イーガン、北大路書房）を参考にしながら、意外性のあるテーマを深掘りしていくことで、別様のテーマに出会うという経験を授業者として設計することがキーとなるでしょう。

## 指導について

Q

学生への指導の仕方を教えてください。

A

日経STOCKリーグに取り組む際にご活用いただける「ティーチャーズガイド」をman@bowにて公開しております。取り組み方や指導のポイント、ご参加いただいた学校の実践例などをまとめてご紹介していますので、是非ご参照ください。

＜中学・高校 指導教員用：「ティーチャーズガイド」＞

<https://manabow.com/sl/study/detail.html>

Q

分析の手法やアプローチの仕方など、具体例があると、今後の指導の方針が立てられてありがたいです。

A

man@bowにてティーチャーズガイド、お役立ちテンプレート集がダウンロード可能です。ご参照ください。

<https://manabow.com/sl/study/detail.html>

## 参加者向け説明会

説明会でお答えしきれなかった質問にお答えしています。質疑応答の様子は動画をご覧ください！

## スケジュールについて

Q

一次参加締め切りにエントリーが間に合わなかったのですが、参加できますか。

A

2025年9月5日（金）まで参加を受け付けております。エントリーをお待ちしております！

Q

投資の期間やレポート作成にかかる時間など、具体的なスケジュールの立て方を教えてください。

A

具体的なスケジュール例をman@bow内にあるティーチャーズガイドにて掲載しています。特に4ページが参考になると思います。ご参照ください。

<https://manabow.com/sl/study/detail.html>

A

スケジュール感は、どれくらいの定期的な頻度で学習時間を設定できるかで大きく変化していきます。毎週1回90分の時間を確保できれば、密度の濃い学習を設計することができます。

本城  
理事長

日経STOCKリーグで学べることは、スケジュール管理もその一つです。提出締切日に向けて、自分たちの力量や他の活動等とのバランスで、いつ何をどこまで取り組んでおけばいいかについて、グループ毎にスケジュール作成と管理を促してください。



## 参加者向け説明会

説明会でお答えしきれなかった質問にお答えしています。質疑応答の様子は動画をご覧ください！

## テーマについて

Q

社会で課題になっているものと経済の結びつきの見つけ方について教えてください。

A

人間活動のすべては経済活動に結びついていると言っても過言ではありません。気になる社会課題を見つけたら、そこに関連する企業を探してみてください。

その会社は具体的にどのような事業をし、どのようなサービス・商品を提供しているかを調べたり、その企業の取引先を調べたりすることで経済との結びつきがどんどん紐解かれていくと思います。

Q

テーマの独自性の必要性和、過去のレポートの活用の仕方について知りたいです。

A

ぜひ独自性のあるテーマに取り組んでみてください。「地球温暖化」や「食品ロス」など普遍性が高いテーマでも、自分たちの問題意識などを組み込むことでオリジナリティが生まれてきます。

過去のレポートは、レポートの構成などの大枠をとらえたり、スクリーニング指標、フィールドワークの仕方など細かい点も参考にできると思います。参加期間の間、適宜読んで参考にしてみてください。

## フィールドワークについて

Q

企業訪問の仕方について教えてください。

A

企業に連絡する際に、まず自分たちの知りたいことを整理してからメールや電話をしてみてください。企業にとっては、どの部署が適切かを探す必要があるので、聞きたい内容が具体的にあれば担当者を任命しやすく、引き受けやすいです。

## 参加者向け説明会

説明会でお答えしきれなかった質問にお答えしています。質疑応答の様子は動画をご覧ください！

Q

イノベーションを起こすような最新技術を取り入れている企業をどのように探せば良いですか。

A

私たちは色々な人にヒアリングをして手探りで見つけていきました。インターネットで企業を調べても、ヒットした企業の事業内容が私達のテーマに本当に合っているのか分かりません。

坂田さん

だから、ヒアリングをして実際にお話を聞きます。インターネットに同じことが書いてあっても実際にお話を聞くと理解の深まりが全然違いますし、「この企業は良い」「この企業も参画してるよ」と教えていただけたり、逆に「この企業の事業はレポートテーマとズレてるよ」と軌道修正してもらえることもありました。

大企業へのヒアリングは、企業ホームページへの問い合わせなどを活用してもお返事に時間がかかることも多く、難しいと感じました。そのような中、テーマに関してインターネットで調べていると、あるベンチャー企業がテーマについて解説していたので、最初はそこにヒアリング依頼をしました。

Q

企業が集まる最新技術の見本市や展示会を見学する際に、どのような指標で企業を見れば良いですか。

A

私たちはテーマを探究しながらそのテーマに合う企業を見つけていく段階でイベントに参加したので、イベントに参加する時点では細かく指標を考えて見学したり企業を評価したりしていませんでした。

坂田さん

あくまでも私の考えですが、企業を絞る指標はスクリーニングをする際に考えれば良いと思います。

候補となる企業をリストアップした後にスクリーニングをして20銘柄に絞るので、あらかじめ指標を決めてイベントに参加するのは、せっかく会場にいるのに狭い視野で企業を見てしまいそうで勿体無いと感じます。

展示ブース、企業の方のお話から「ポートフォリオに入れたい、入れてもいいかも」と思うかがイベント参加時の私たちが企業を見る指標でした。

とはいえ、この点についてはイベント参加時の活動状況（スクリーニングの前か後かなど）によって変わると思います。

## 参加者向け説明会

説明会で答えしきれなかった質問にお答えしています。質疑応答の様子は動画をご覧ください！

## スクリーニングについて

Q

企業の分析の仕方を知りたいです。

A

まずは有価証券報告書を読んでみましょう。すべてを理解できなくても、会社が何に挑戦しようとしているのか、自分たちの何を株主たちに伝えたいのかを、読み解くヒントがあるかと思っています。

Q

ポートフォリオを作る際に選ぶ基準（スクリーニング指標の決め方）について教えてください。

A

man@bowにある「日経STOCKリーグ参加者向け授業～銘柄・スクリーニング・財務分析～」動画をご参照ください。

＜動画ギャラリー＞ [https://manabow.com/movie\\_gallery.html](https://manabow.com/movie_gallery.html)

Q

スクリーニングで100社から20社に絞る際、100社の有価証券報告書や統合報告書を読んで20社まで絞るのですか。

A

有価証券報告書や統合報告書を必ず100社分読んでから20社に絞っていく必要はありません。財務指標や自分たちの指標に照らし合わせ、よりスクリーニングを精緻にしていく際の参考資料として読んでみる使い方もあります。

なお、必ずしも100社である必要はありません。初めから20社を選ぶのではなく、多めにピックアップしたうえで、絞りこむとよいということの例えですので、最初に何社選ぶかはチームで決めてください。

## 参加者向け説明会

説明会でお答えしきれなかった質問にお答えしています。質疑応答の様子は動画をご覧ください！

Q

定性的な視点のスクリーニングはどんな考え方で明確な判断基準を考えましたか。

A

定性的な視点のスクリーニングについては、過去のレポートを10チーム分くらい読み込むと発見できると思います。

本城  
理事長

Q

専門的なスクリーニング指標はやはり関連する論文を読み漁って偶然の出会いを探すしかないのでしょうか。それとも指標ありきの論文作成となるような部分もあるのでしょうか。

A

スクリーニング指標は、専門性にこだわることも一つですが、まずは財務指標や、自分たちの独自の指標を使ってください。自分たちのオリジナリティを出していく上で専門的な指標が必要であれば、関連論文を読むことも一手かと思います。

## バーチャル株式投資について

Q

どうやって投資するのですか。

A

支給される仮想の500万円を元手に、実際の株価に基づいて、インターネットで株式売買シミュレーションを行うことのできるバーチャル株式投資を活用します。

参加エントリー後に事務局より発行されるチームID、パスワードを入力してログインします。  
man@bowからアクセスできます。

<https://stockleague.nikkei.co.jp/login/index.aspx>

## 参加者向け説明会

説明会でお答えしきれなかった質問にお答えしています。質疑応答の様子は動画をご覧ください！

## 審査について

Q

評価をする際にどのような点を重視しますか。

情報の信ぴょう性について、偏った情報・結果とならないようにするにはどうすれば良いですか。  
またバーチャル株式投資の結果は評価対象ではないとのことですが、低いよりは高い方が良いでしょうか。

A

参加者独自の視点を取り入れよく考察されているか、テーマとポートフォリオ構築に一貫性があるか、を主にみています。

情報の信ぴょう性については、どのような出典のものなのか、編集されているものなのか（あくまでも執筆者のみの意見、考えに沿って書かれたものなのか）などに注意して文献、情報をみてください。情報の偏りが気になる場合は、指導教員やまわりの大人に違う視点の情報が無いかなら相談してみましよう。

バーチャル株式投資の評価額は、その如何に関わらず評価対象となりません。

Q

どのようなレポートが毎年評価されているのか、共通項があれば教えてください。

A

テーマ設定からポートフォリオ構築、分析、レポートの構成まで、よく考えられ、わかりやすくまとまっているものや、自分たちの視点を取り入れ、参加者でなくては作成できないレポートに仕立て上げているものなどが評価されています。

